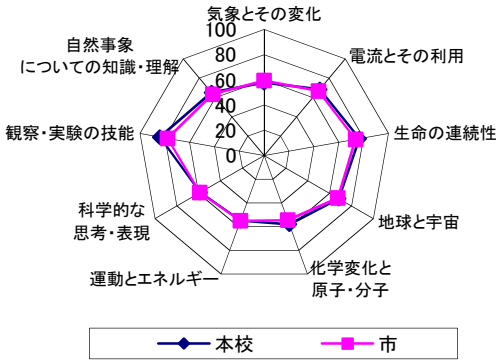


宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	57.8	59.4
	電流とその利用	68.5	66.9
	生命の連続性	76.5	73.6
	地球と宇宙	68.3	67.4
	化学変化と原子・分子	58.1	54.6
	運動とエネルギー	55.0	55.1
観点別	科学的な思考・表現	58.7	58.9
	観察・実験の技能	84.2	77.9
	自然現象についての知識・理解	65.1	63.5



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	・平均正答率は市の平均に比べて1.6ポイント低い。基本的な問題においては正答率90%以上のものもみられるなど、よく定着している様子が伺えたが、飽和水蒸気量のグラフから水蒸気量を求める知識が不足していることが伺える。	・引き続き基礎的・基本的事項の反復練習を重ねるとともに、根気強く資料から必要なデータを読み取る能力を育てていきたい。
電流とその利用	・平均正答率は市の平均に比べて1.6ポイント高い。この領域に関しては、静電気に関する知識理解が低く、電流によって生じる磁界の向きや強さに関する理解が高い。全体的に見ると70～80%の正答率を示す問題が見られ、概ね理解できていることが伺える。	・静電気に関する実験に工夫を凝らし、感覚的に電気の性質が把握できるよう授業展開を考えていきたい。また、感覚→理論への過程がスムーズに移行できる工夫を考えたい。
生命の連続性	・平均正答率は市の平均に比べて2.9ポイント高い。特に細胞内の様子や、遺伝子の仕組みなどに関する問題では正答率が90%を超えており、基本的な知識が良く定着していることが伺える。ただ、細胞の伸長についての認識には不足している様子が伺える。	・生物分野に対する興味関心は高く、細胞分裂や遺伝の仕組みに関しては実験や観察にも良く取り組む。今後は観察機器の充実を図ると共に、最新の映像資料やPCのプログラムを利用し、より身近な現象として捉えられる工夫をしていきたい。
地球と宇宙	・平均正答率は市の平均に比べて0.9ポイント高い。この領域においては太陽の日周運動や年周運動の基本的な知識は身についていることが伺える。しかし、太陽の位置から方位を見いだす力が少し不足している。	・太陽の運動などは身近に感じられ、比較的理解されやすい領域ではあるが、自然現象の法則性を見だし、理論付けする能力をより養うため、事象観察から理論追究まで連続してできる教材研究と方法を考えたい。
化学変化と原子・分子	・平均正答率は市の平均に比べて3.5ポイント高い。この領域に関しては、実験を通して得た知識に関する問題には高い正答率を示している。しかし、その現象の原因を理論的に考える問題については低い正答率を示している。	・化学分野に関しては、現象把握しやすい実験を今後も続けていくようにしたい。さらに、把握した現象→原因究明→理論付けの過程がスムーズに移行できる教材の開発や授業の展開を考えたい。
運動とエネルギー	・平均正答率は市の平均に比べて0.1ポイント低い。基本的な問題においては市と同程度あるいは高い正答率を示すが、原理を応用した問題などの正答率が低くなっている。	・物理の中でも本分野に関しては、目に見えない「力」や「エネルギー」を扱うことから、現象把握が難しく、知識の定着につながらない場合が多い。このため、実験を多く取り入れると共に、データ処理にPCを用いたり、シミュレーションを利用した授業展開を図っていきたい。